

した資料1点が得られており（報告書第39図46）、ムシリ1式に比定できうるものと考えられる。^(註9)
 また、本庄市神沢海岸遺跡では後続する上川名1式に比定された内外面に縄紋を施紋した土器を主体とする中に、槻木1式に比定された細隆起線紋施紋の資料（B類土器）がある。^(註10)ただし、その資料の中には地紋に縄紋を施紋する例が含まれている。本遺跡第Ⅰ群第2類とした縄紋施紋の土器も胎土・焼成の点で第1類と極めて近似するが、あるいはこの神沢海岸遺跡のB類土器の在り方に通じるものかも知れない。

第2節 中世の遺構と遺物について

県内でこれまで調査された中世墳墓あるいは経塚としては、平鹿郡雄物川町大沢の北野遺跡、湯沢市松岡にある松岡経塚、雄勝郡羽後町三輪に所在する十三本塚経塚がある。その他、秋田県遺跡地図の一覧表中に経塚あるいは墳墓、もしくは単に塚と記されている遺跡は54カ所存在する（第4表）。県内での分布を見ると、雄物川上中流域の雄勝・横手・平鹿地方と昭和町、井川町など南秋田に集中し、その間をつなぐ河辺郡、仙北郡内や由利郡内にも散在する。県北部では鹿角と能代にそれぞれ1カ所づつあるのみである。

ところで、中世初期の経塚出土の経外陶器の地域相について考察した吉岡康暢は秋田県内の資料として湯沢・松岡経塚、大森・上溝観音寺経塚、雄物川・大沢経塚、横手・閑居長根1号経塚、男鹿・加茂青砂経塚の例を扱っている。^(註11)それによると、大沢経塚の中形叩打壺、松岡経塚の中形叩打壺1例と蓋に用いられていた片口鉢、加茂青砂経塚、閑居長根1号経塚の小形壺は須恵器系の製作技法を踏襲した珠洲系陶器と分類され、松岡経塚の中形叩打壺他1例、上溝観音寺経塚の中形叩打壺は須恵器系と瓷器系の製作・焼成技術を合わせ持った須恵器・瓷器折衷系陶器として分類されている。そして、後者資料の製作年代を在銘経筒の年代に合わせ、松岡経塚の例を12世紀後葉、上溝観音寺経塚の中形叩打壺にはおよそ12世紀後半の年代を与えている。^(註12)

本遺跡S X 03から出土した第16図34、35の資料は器形を復元することのできない小片であるが、外面は素紋板状原体、内面は円形素紋の原体で叩き締めて成形し、かつ橙色に発色している。この特徴は、吉岡が須恵器・瓷器折衷系陶器の特徴としてあげた叩打成形技法と酸化焰焼成による赤褐色の器面発色の組み合わせと対応するのではないかと思われる。もし、この観察に違いがなければ、本遺跡の資料は吉岡が挙げた松岡経塚、上溝観音寺経塚の中形叩打壺とは同じような製作年代が与えられ、したがって、S X 02、S X 03には平安時代末期から鎌倉時代の初めにかけての年代が与えられる。

県内で調査された経塚のうち、羽後町十三本塚経塚は江戸期の絵図によれば始め13基の円丘が列をなしていたとされるが、明治期から昭和35年までの間にすべて消滅している。幸いにも

(註13)

昭和28年の段階で残存していた7号および10号の2基については調査記録されている。そのうち径7～7.2m、高さ1.22mの規模をもつ10号の記録によれば、表土直下中央にやや大きめの石を中心として477個の一字一石経らしい小石が径60～65cm、厚さ16cmの塊状にあり、宋銭、人骨片などが周囲から出土したという。経石はなかったが塚中央に小石の集積が認められる点は、本遺跡S X 02、S X 03の頂部の状態に類似すると言えなくもない。十三本塚経塚の報告者はその造営の時期を鎌倉時代におかれる可能性があると言っている。

本遺跡のS X 02、S X 03についてはその両者ともおよそ半分を削られており、初期の中世陶器と思われる陶器片が出土したものの、それが墳墓にともなう蔵骨器であったのか、経外容器であったのか判然としない。県内の塚を伴う中世墳墓、また経塚とも調査例が少なく、比較を容易に行えないのが現状である。また十三本塚経塚のように一字一石経とともに人骨片が出土するような、墳墓とその追善供養の痕跡が同一の遺構に残される例もあるようである。いずれ、年代、性格、さらに東北部の中世史の中での位置付けなど、類似遺跡の調査が進むことで明らかになることが多いと言わざるを得ない。

註

註1 型式名に用いられる数字についてはアラビア数字を用いた。ムシリ1式については設定者自身がローマ数字を用いている経緯があるが、戦後の型式名に用いられる数字の混乱については次の文献が詳しい。

柳沢清一「加曾利E式の細別と呼称」『古代』80 1985(昭和60年)

註2 ムシリ1式土器の主体となる土器は早稲田3類中にも見られる沈線紋の施された土器で、細隆起線紋の施された土器の割合は少ない。売場遺跡では第Ⅵ群A類がこれにあたる。ムシリ1式土器に2種類の土器が存在することは、槻木1式土器との関係を考える上で重要な点であるが、ここではその問題には触れず、単に細隆起線紋の施された土器に限って考える。なお、槻木1式は関東地方野島式との対比が言われるが、林(1982)が指摘するように、その直接の関係はないものと思われる。管見の限りではあるが、胎土・器厚の点においてその差は著しい。野島式土器の細隆起線の施紋法に関しては売場遺跡報告者が野島型隆起線としてムシリ1式土器の施紋法と対比している。槻木1式土器の貼付けの手法がどちらにより近いものかは不明である。

林謙作「縄文早前期の土器―北海道南部、東北地方」『縄文土器大成1 早・前期』講談社 1982(昭和57年)

註3 青森県教育委員会「売場遺跡発掘調査報告書」1984(昭和59年)

註4 山形県教育委員会「いるかい遺跡発掘調査報告書」1983(昭和58年)

註5 仙台市教育委員会「富沢遺跡第28次発掘調査報告書」1988(昭和63年)

註6 岩手県教育委員会「御所ダム建設関連遺跡発掘調査報告書」1982(昭和57年)

註7 芹沢長介・林謙作「岩手県蛇王洞洞穴」『石器時代』第7号 1965(昭和40年)

註8 岩手県埋蔵文化財センター「上里遺跡発掘調査報告書」1983(昭和58年)

註9 秋田県教育委員会「国道103号大館南バイパス建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ」1988(昭和63年)

註10 本荘市教育委員会「神沢海岸遺跡」1971（昭和46年）

註11 吉岡康暢「経外容器からみた初期中世陶器の地域相」『紀要』第14号 石川県立郷土資料館 1985（昭和60年）

註12 松岡経塚:建久7年[1196]、上溝観音寺経塚:久安5年[1149]

註13 奈良修介・豊島昂「秋田県の考古学」吉川弘文館 1967（昭和42年）

参考文献

山内清男「関東東北に於ける繊維土器」『史前学雑誌』第1巻第2号 1929（昭和4年）

山内清男「同 追加 第一」『史前学雑誌』第1巻第3号 1929（昭和4年）

林謙作「縄文文化の発展と地域性—東北」『日本の考古学Ⅱ縄文時代』河出書房 1965（昭和40年）

縄文文化検討会「東北・北海道における縄文時代早期中葉から前期初頭にかけての土器編年について」

第4回縄文文化検討会シンポジウム資料 1989（平成元年）

第4表 県内塚一覧(秋田県教委「秋田県遺跡地図」1976より作成)

遺 跡 名	所 在 地	規模 (単位m)	塚・基数	遺 構 ・ 遺 物
河 戸 川 経 塚	能代市河戸川			須恵器・経石
石 野 遺 跡	鹿角市十和田藩田石			経石
北 野 I 遺 跡	秋田市金足			骨壺・火葬人骨
小 林 II 遺 跡	秋田市上新城	径8×7、高さ1		
空素沼 I・II 遺跡	秋田市寺内	径5×6、高さ1	2	
根 笹 山 遺 跡	秋田市寺内	径6、高さ1		
館 岡 B 遺 跡	南秋田郡井川町森田			土師器壺
南 台 遺 跡	南秋田郡井川町八田			骨壺(須恵器、土師器)、人骨
白 洲 野 盛 土 群	南秋田郡昭和町大久保			
槻 木 盛 土 群	南秋田郡昭和町豊川槻木			須恵器壺
大 部 沢 遺 跡	南秋田郡昭和町豊川上虻川	径8、高さ1		
文 覚 台 遺 跡	南秋田郡昭和町豊川上虻川			鈴、錫杖頭金具
薬 師 積 石 群	南秋田郡昭和町豊川上虻川			壺3
大 工 沢 遺 跡	南秋田郡昭和町豊川上虻川			須恵器片
蛭 根 遺 跡	秋田市寺内	径7、高さ1.5	3	
飛 沢 遺 跡	河辺郡河辺町三内			須恵器
鍛 冶 屋 敷 遺 跡	河辺郡河辺町岩見			一字一石経
上 屋 敷 I 遺 跡	仙北郡田沢町田沢			
湯 ノ 日 遺 跡	河辺郡雄和町川添			須恵器片
長 省 森 遺 跡	河辺郡河辺町式田			須恵器片
大 栗 II 遺 跡	仙北郡西仙北町土川	径2、高さ1		
土 川 遺 跡	仙北郡西仙北町土川			一字一石経
高 寺 経 塚	大曲市内小友			一字一石経
大森観音寺経塚	平鹿郡大森町上溝			経筒、経蓮
陀 弥 長 根 遺 跡	仙北郡仙南村金沢			双鶴文鏡、土師器、須恵器片
一 字 山 遺 跡	仙北郡仙南村金沢			経筒
鳥 井 長 根 経 塚 群	横手市金沢		3	箱、刀、斧、経筒、経文、須恵器
閑居長根経塚群	横手市金沢			古鏡蓋付陶製経筒(須恵器)、古鏡蓋付銅製経筒(鎌倉)
保 土 森 古 墳	横手市金沢中野			骨壺、須恵器片
根 城 経 塚	由利郡由利町川西			
九 日 町 経 塚	由利郡矢島町元町			経石
大 沢 遺 跡	平鹿郡雄物川町大字根羽子沢			経壺、経筒、紙本経
廻 館 十 三 塚	平鹿郡雄物川町東里			
台 山 I	由利郡東由利町老方			土師器、須恵器
増 田 多 古 屋 敷	平鹿郡増田町増田			経石、曲玉
松 岡 経 塚	湯沢市松岡			金銅経筒 須恵器、土師器、刀子、菊花双雀文鏡
鎌 沢 盛 遺 跡	田沢湖町梅沢			
三 本 杉 経 塚	仙北郡神岡町北栢岡			経石
東 山 本 経 塚	仙北郡仙南村飯詰			
坊 の 塚 遺 跡	平鹿郡平鹿町浅舞			
郷 I 遺 跡	平鹿郡雄物川町今宿			
睦成字七日市塚群	横手市睦成		2	
小 吉 山 塚 群	横手市大鳥町		5	積石塚
小 吉 山 火 葬 墓	横手市大鳥町		2	積石塚、石棺
大 鳥 井 山 十 三 塚	横手市大鳥町			須恵器
塚 堀 字 塚 腰 塚	横手市塚堀		1	
城 野 岡 塚 群	横手市赤坂		2	
館 の 下 十 三 森	雄勝郡羽後町田沢		複数(墳塚列)	
貝 沢 拾 三 本 塚	雄勝郡羽後町貝沢		13	経石、宋銭
浦 田 山 十 三 森	雄勝郡羽後町西馬音内		複数(墳丘列)	
大 谷 経 塚	雄勝郡桶川町			
首 切 森・積石塚	秋田市上新城白岩	径2×1、長方形積石		
七 ツ 森 遺 跡	秋田市橋山金照町			
向山(加茂青砂)	男鹿市戸賀加茂青砂			須恵器経壺